

江戸名所獨案内

全

213

工

全

あはれぬがもあけつたまの定より、廣きむきし野の原と  
おろしきすけ  
大田持賢ぬ、よき 池のひけんまは 三百有餘年のむら、今もわ  
まね ひかり 和子の伊代の惠の露れ漏らなうてまかうをれへ流  
なま けい 宿の煙りも消し路のさ痛うも せき おん せき おん せき  
さ さ 境まをく内づえぬ人の道の程もあさるわと 遠国書肆か思ひ  
起 か 起して懐ふよき小女と逢 つ 九年が一毛をか付くつたまん

弘化丙午の春



元板

横山町一丁目  
出雲寺 森次郎  
馬喰町三丁目  
森 屋次郎 兵衛

土壺焼の

榮螺史

なまむね

尺五ふろ

春の

景及

奥判

土久羅坊



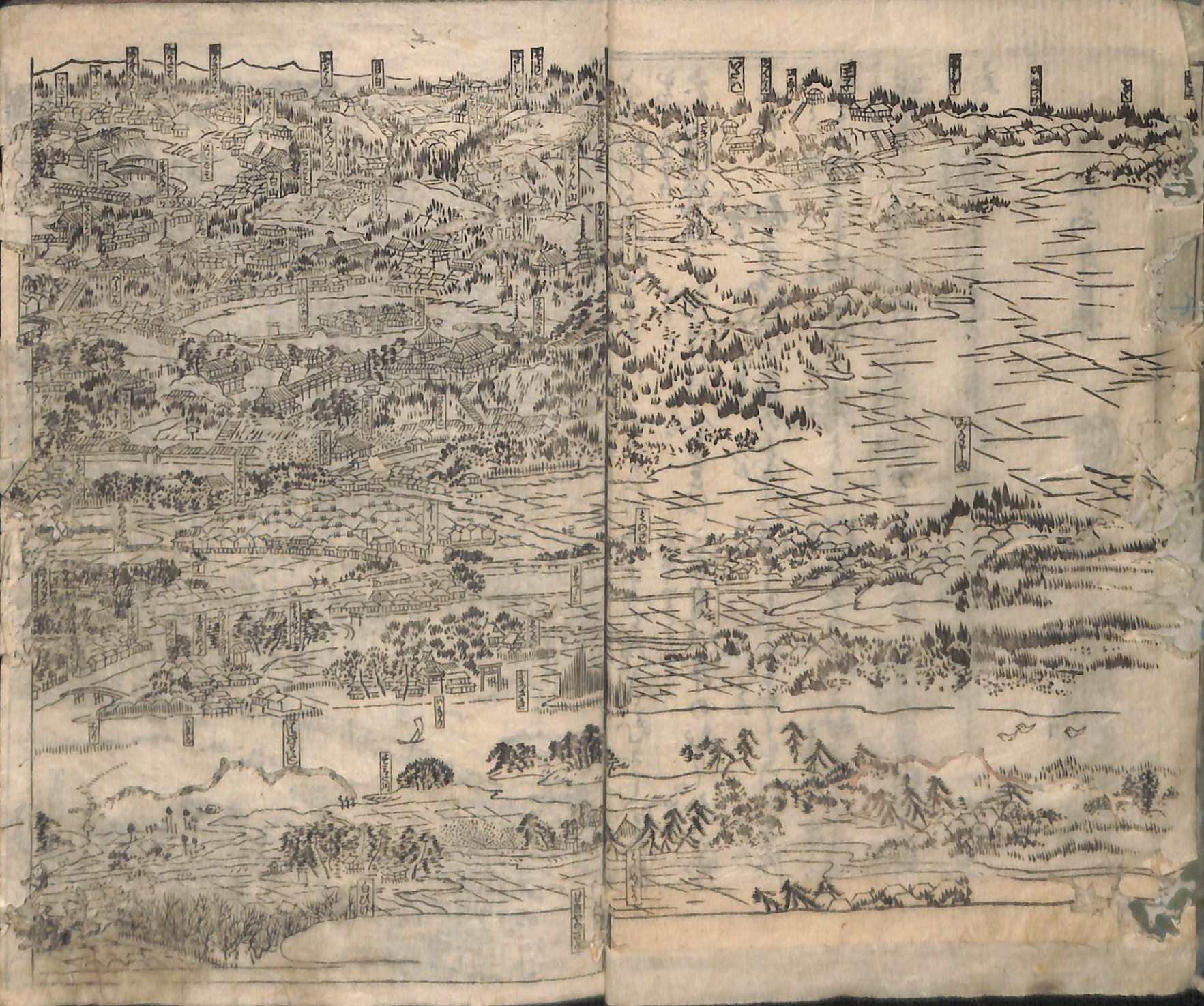
春の  
 尺五ふろ  
 奥判  
 土久羅坊  
 大田持資ぬいし海女けんといは三月有條年のむく今わ  
 また 和の市代の惠の雲れ漏らさるまをこれへ流  
 煙の煙りも消し路の痛らも 控ゆるもかす無草も水と流  
 境まきと向ぐえぬ人の道の程もささるわと 這回書肆か思ひ  
 起して懐ふよき小女と逢は九斗が一毛とわい付もいりたあん

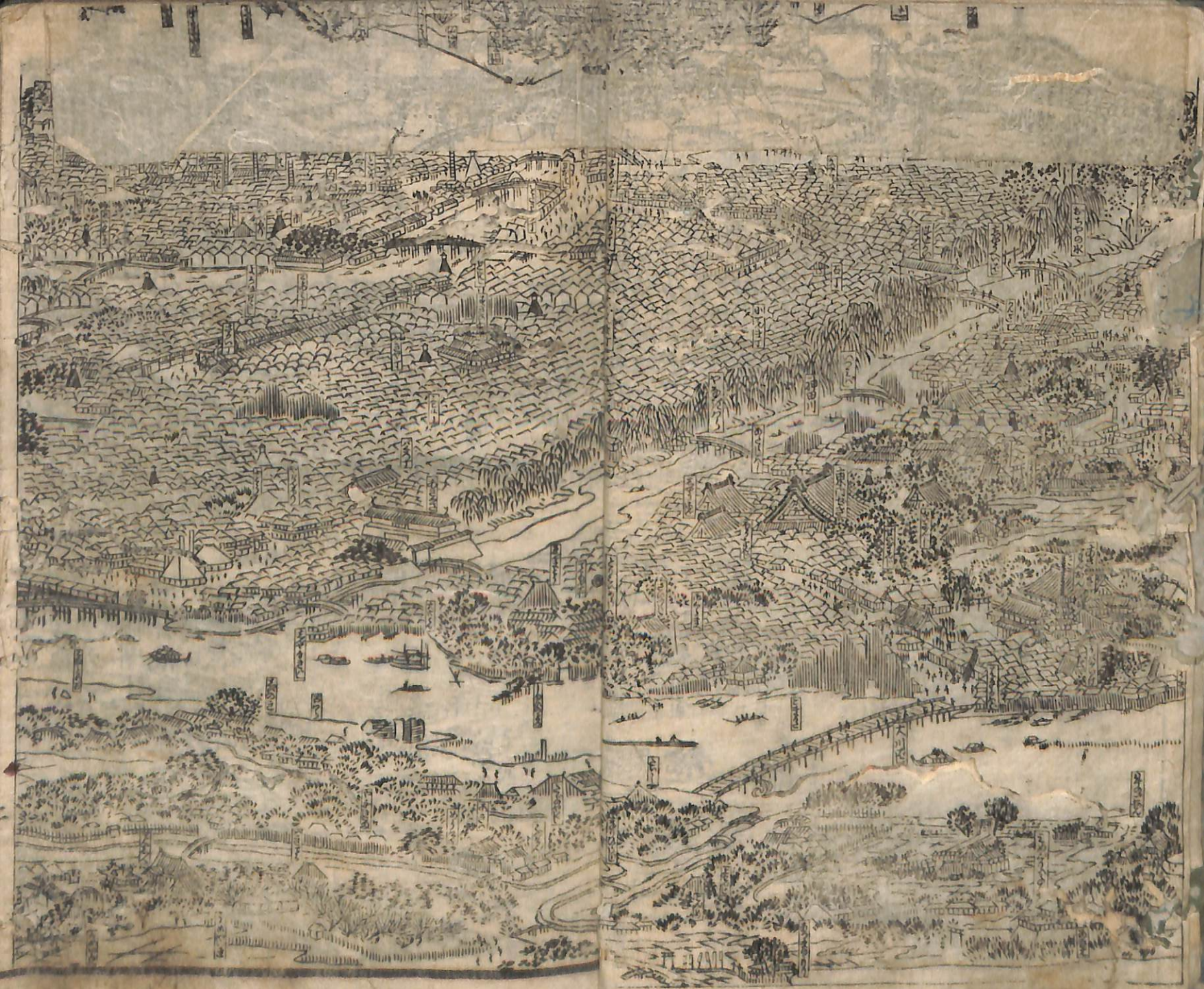
弘化丙午の春



元板

横山町一丁目  
 出雲寺次郎  
 馬喰町三丁目  
 森屋次郎兵衛







都日本橋之圖



右小園寺を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て  
 次小舟を以てするに橋を以て  
 右小園寺を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

小舟を以てするに橋を以て  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

東北方 日本橋を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

西北方 日本橋を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

日本橋より左の方を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

日本橋より右の方を以ては都の熱湯  
 舟を以ての船もも漏すこと  
 としとる低中  
 橋ははばをのり  
 室を以てするに橋を以て

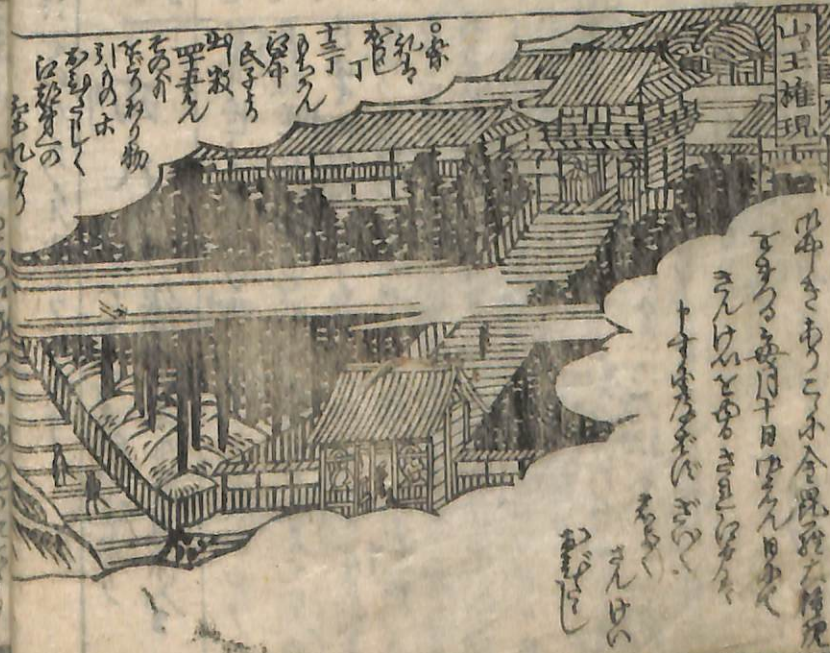
深川八幡

深川八幡宮の御由緒  
に付て云く

古くより深川に  
神ありて  
今も昔も  
此の神あり

深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり

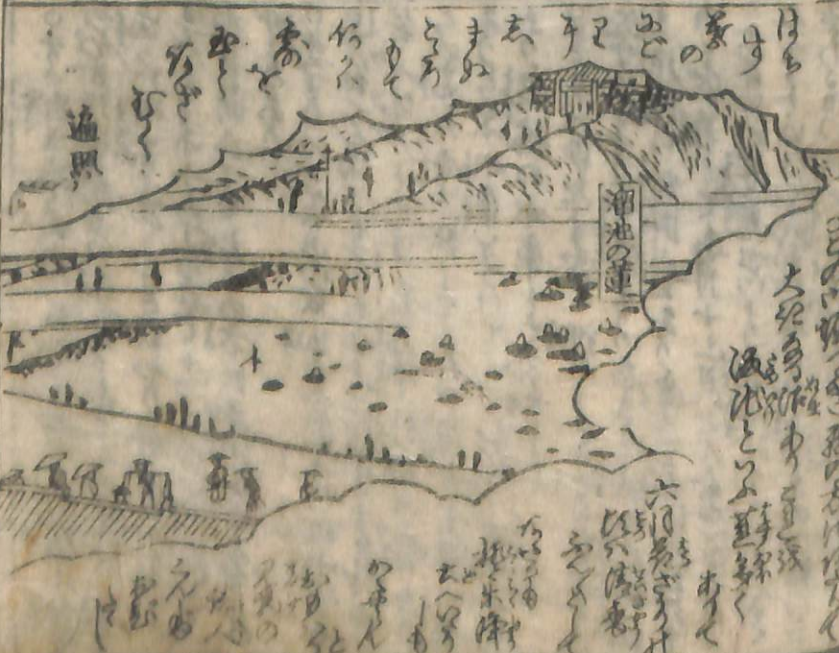
深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり



此の神ありて  
今も昔も  
此の神あり

深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり

深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり



深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり

深川八幡宮の御由緒  
に付て云く  
今も昔も  
此の神あり

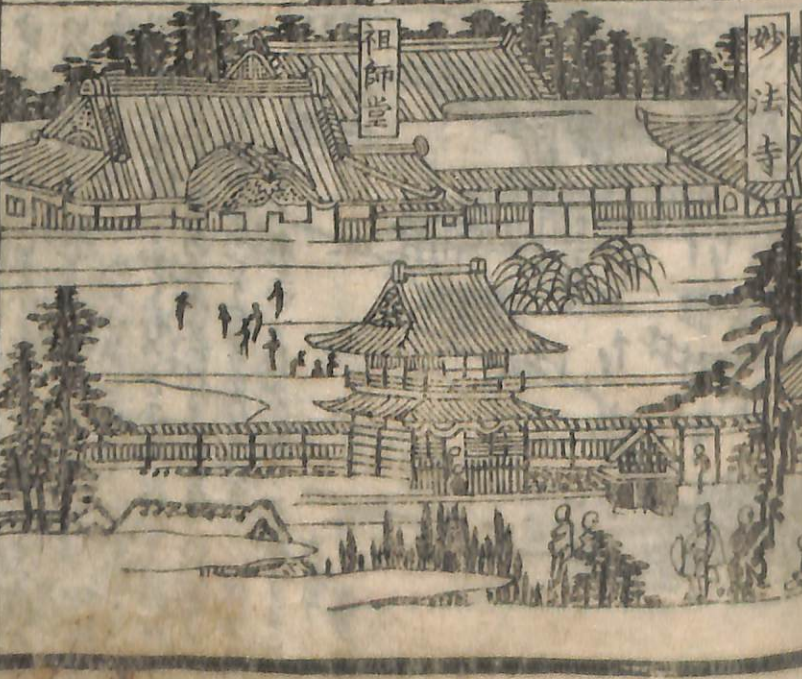


ますり乃成さひて必南らん入へ契一とを本末  
 ともなきの事とて下よりゆくゆづくを  
 同て飛入へ契一とを本末とて下よりゆくゆづくを  
 ますり乃成さひて必南らん入へ契一とを本末  
 ともなきの事とて下よりゆくゆづくを



此より向へ  
 國をこれの世その外  
 万を乃成さひて必南らん入へ契一とを本末  
 ともなきの事とて下よりゆくゆづくを

〇ますり乃成さひて必南らん入へ契一とを本末  
 ともなきの事とて下よりゆくゆづくを  
 〇ますり乃成さひて必南らん入へ契一とを本末  
 ともなきの事とて下よりゆくゆづくを







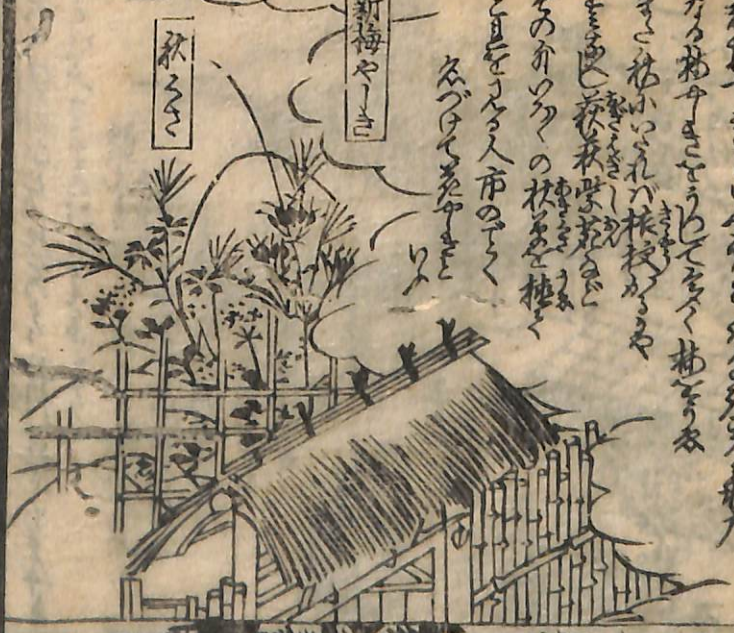
考命

まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて  
なる杉ゆきとりのありと云をたうりて  
まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて

名づけて花やまき

新梅やまき

秋さく



まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて  
なる杉ゆきとりのありと云をたうりて  
まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて



まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて  
なる杉ゆきとりのありと云をたうりて  
まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて



まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて  
なる杉ゆきとりのありと云をたうりて  
まきの高松林の中を林まひらきやせり乃史  
に道隔田の古曾たうりたれり田々の方小  
杉林ゆきとりのありと云をたうりて



高田の馬場  
大馬場  
替古の圖

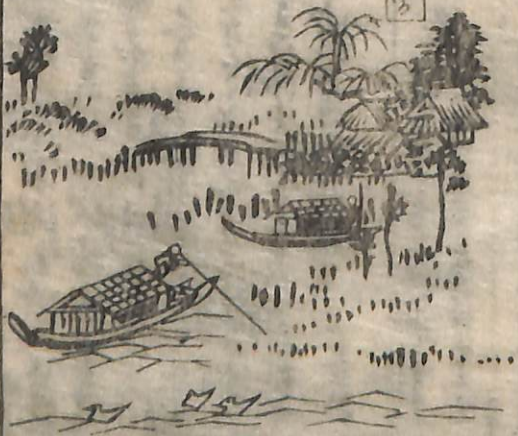
是より程まじはるのやまのたけのうらふ寺あり  
 此を本妙といふ人のち小橋のうらふ寺あり  
 毎年二月十日有るを信くやとを法大んを  
 かくて三國よりこまき

鴨田川つとあるふかむひにきまこち  
 あり二月下旬を六月上旬のたより  
 らまんと感みれなりあ

すくま川の

梅のつた

その  
 けさ  
 いろ  
 う



高田の  
 馬場  
 大野的  
 誓古の  
 圖

大野的  
 誓古の  
 圖  
 高田の  
 馬場

高田の馬場  
 大野的誓古の圖  
 高田の馬場  
 大野的誓古の圖  
 高田の馬場  
 大野的誓古の圖



日本伝不守奈の附とまま



大の御堂より又東に方にありて流平殿ありて石  
すまて海に流る御堂と申さるあり  
○まてあかひの寺と申されし御堂なりて以てまて丁あり  
御下丁ありてより橋ありて此の寺は橋より西  
まて丁の右の寺は御堂の御堂ありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり

# 芝神明宮

○ゆるゆると  
ゆるゆると  
ゆるゆると



○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり

○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり

○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり

○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり

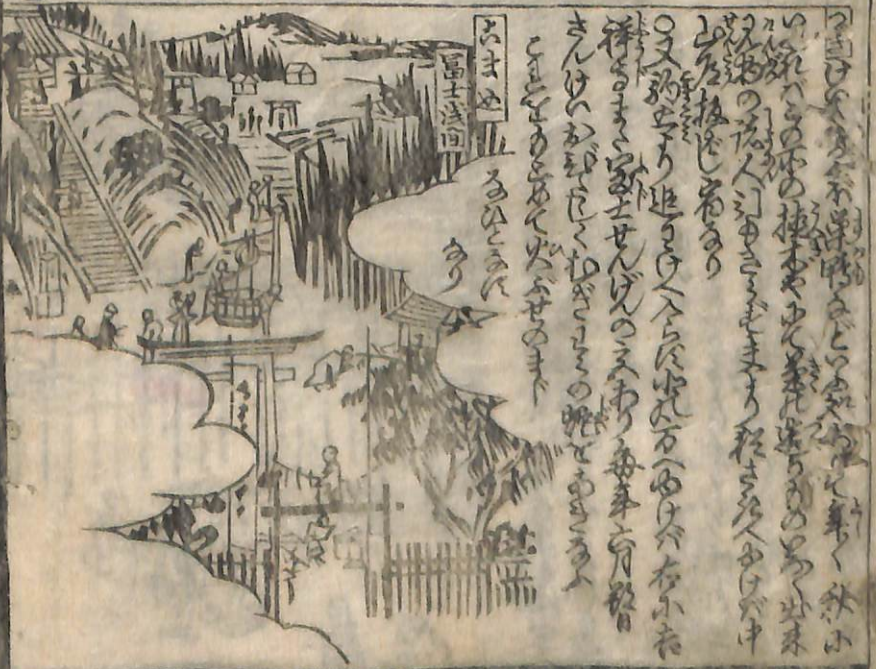
○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり



○まての寺は流平の御堂と申さるありては東の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり  
御堂の御堂ありては東の寺ありては西の寺あり



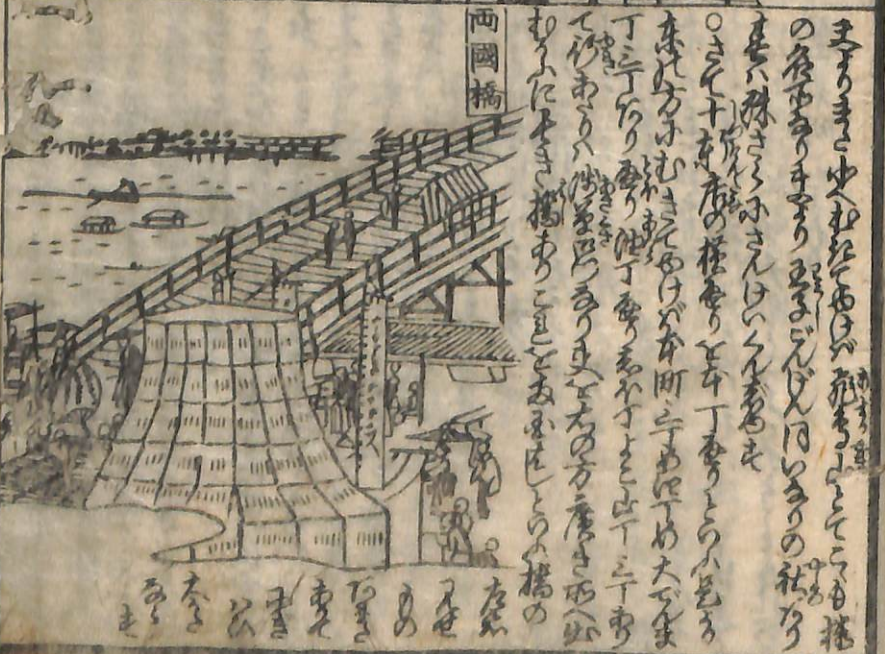
〇この下敷のていふきとあけがたのゆりあ  
 るこころし橋とていふとれよりあ  
 〇この下敷のていふきとあけがたのゆりあ  
 るこころし橋とていふとれよりあ  
 〇この下敷のていふきとあけがたのゆりあ  
 るこころし橋とていふとれよりあ



〇又約あり進まけに入らぬ方へゆけ  
 〇又約あり進まけに入らぬ方へゆけ  
 〇又約あり進まけに入らぬ方へゆけ  
 〇又約あり進まけに入らぬ方へゆけ



〇またより  
 〇またより  
 〇またより  
 〇またより



〇またより  
 〇またより  
 〇またより  
 〇またより



なるべきをより先よ東海  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり



舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり  
 舟船の古せたるをそれより  
 山といひたり海あり



これよりてまへ  
 さい丁大河のそよふ  
 さんめん橋あり  
 さいなこまうと堂といふ  
 ちよふらの田を  
 さいなこまうと堂といふ



金にわら板元森治

初編 神社の人の江戸入	二編 東海道より伊勢	三編 東海道より伊勢	四編 長崎の祀り	五編 木常津街道の祀り	六編 木常津街道の祀り	七編 奥忍れ祀	八編 秋後街道の祀り	九編 秋後街道の祀り	十編 秋後街道の祀り	十一編 秋後街道の祀り	十二編 秋後街道の祀り	十三編 秋後街道の祀り	十四編 秋後街道の祀り	十五編 秋後街道の祀り	十六編 秋後街道の祀り	十七編 秋後街道の祀り	十八編 秋後街道の祀り	十九編 秋後街道の祀り	二十編 秋後街道の祀り
----------------	---------------	---------------	-------------	----------------	----------------	------------	---------------	---------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

直國川歌水亭

